



鳥取労働局発表

平成27年10月21日

【照会先】

鳥取労働局職業安定部職業対策課
課長 野田 千卯
課長補佐 遠藤 一郎
(電話) 0857(29)1708

鳥取県における平成27年「高年齢者の雇用状況」集計結果

～ 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の割合が0.8ポイント増加し、過去最高の69.3%へ～

鳥取労働局(局長 ^{かわの すみとも} 河野 純伴)は、高年齢者を65歳まで雇用するための「高年齢者雇用確保措置」の実施状況などをまとめた、平成27年「高年齢者の雇用状況」(6月1日現在)の集計結果を公表します。

高年齢者が年齢にかかわらず働き続けることができる生涯現役社会の実現に向け、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」では、65歳までの安定した雇用を確保するため、企業に「定年の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入」のいずれかの措置(高年齢者雇用確保措置)を講じるよう義務付け、毎年6月1日現在の高年齢者の雇用状況の報告を求めています。

今回の集計結果は、この雇用状況を報告した鳥取県内の従業員31人以上の企業721社の状況をまとめたものです。なお、この集計では、従業員31人～300人規模を「中小企業」、301人以上規模を「大企業」としています。

【集計結果の主なポイント】

1 高年齢者雇用確保措置の実施状況

高年齢者雇用確保措置を「実施済み」の企業の割合は98.2%(対前年差0.1ポイント減少)
(9ページ表1)

- ・中小企業は98.1%(同0.1ポイント減少)
- ・大企業は100.0%(同増減なし)

2 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

(1) 希望者全員が65歳以上まで働ける企業は500社(同9社増加)、割合は過去最高の69.3%
(同0.8ポイント増加)(12ページ表4)

- ・中小企業では481社(同12社増加)、70.9%(同1.1ポイント増加)
- ・大企業では19社(同3社減少)、44.2%(同4.7ポイント減少)

(2) 70歳以上まで働ける企業は145社(同12社増加)、割合は20.1%(同1.6ポイント増加)
(12ページ表5)

- ・中小企業では140社(同12社増加)、20.6%(同1.6ポイント増加)
- ・大企業では5社(同増減なし)、11.6%(同0.5ポイント増加)で、中小企業の取り組みの方が進んでいる

3 定年到達者に占める継続雇用の割合

過去1年間の60歳定年企業における定年到達者(1,145人)のうち、継続雇用された人は937人(81.3%)、継続雇用を希望しない定年退職者は206人(18.0%)、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった人は2人(0.2%)(14ページ表7-1)

詳細は、次頁以下をご参照ください。

<集計対象>

鳥取県内の常時雇用する労働者が 31 人以上の企業 721 社

中小企業 (31~300 人規模) : 678 社

(うち 31~50 人規模 : 241 社、51~300 人規模 : 437 社)

大企業 (301 人以上規模) : 43 社

1 高年齢者雇用確保措置の実施状況

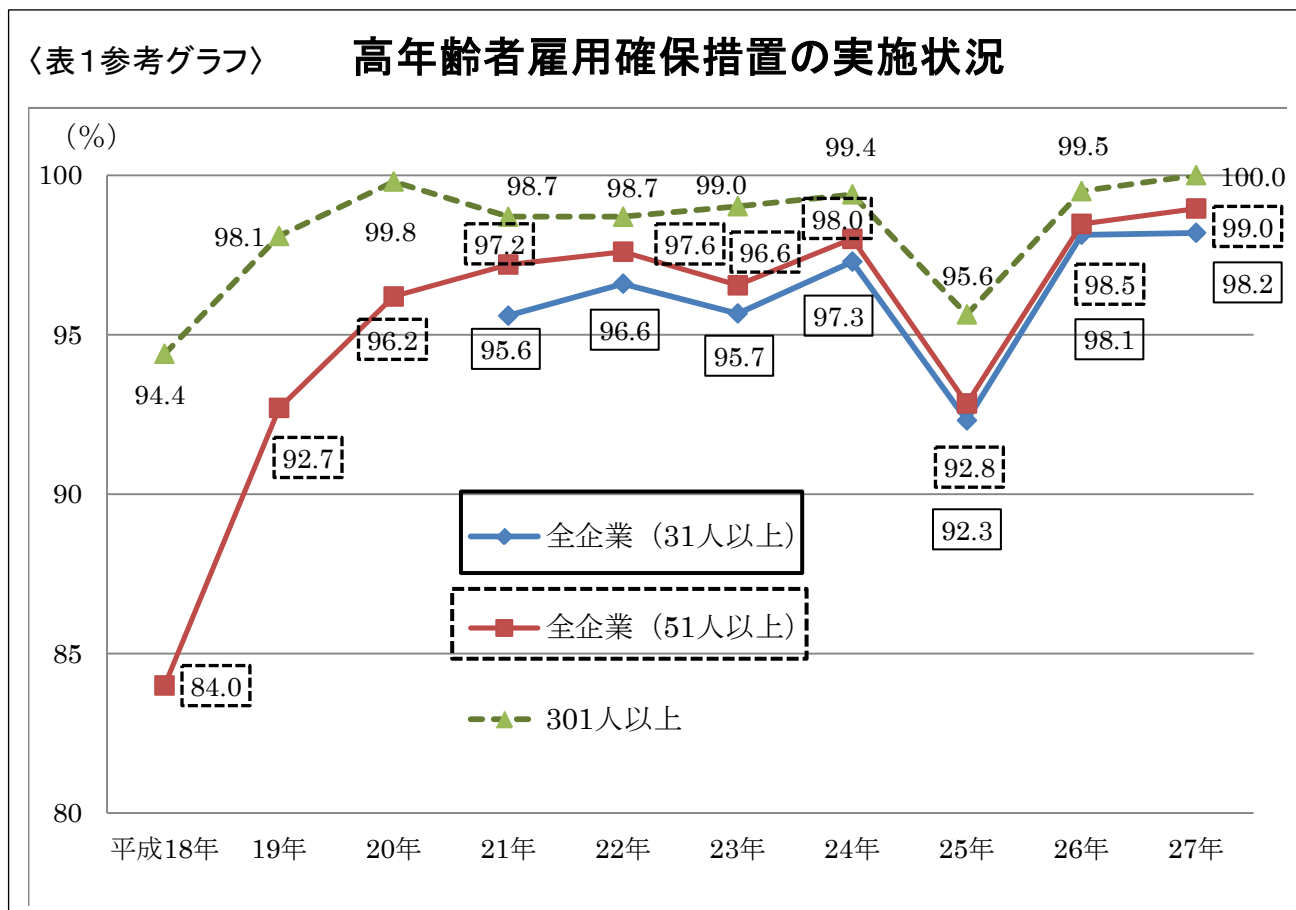
(1) 全体の状況

高年齢者雇用確保措置(以下「雇用確保措置」という。)の実施済企業の割合は 98.2% (708 社) (対前年差 0.1 ポイント減少)、51 人以上規模の企業で 99.0% (475 社) (同 0.5 ポイント増加)となっている。

雇用確保措置が未実施である企業の割合は 1.8% (13 社) (同 0.1 ポイント増加)、51 人以上規模企業で 1.0% (5 社) (同 0.5 ポイント減少)となっている。(9 ページ表1)

(2) 企業規模別の状況

雇用確保措置の実施済企業の割合を企業規模別に見ると、大企業では 100.0% (43 社) (同増減なし)、中小企業では 98.1% (665 社) (同 0.1 ポイント減少)となっている。(9 ページ表1)



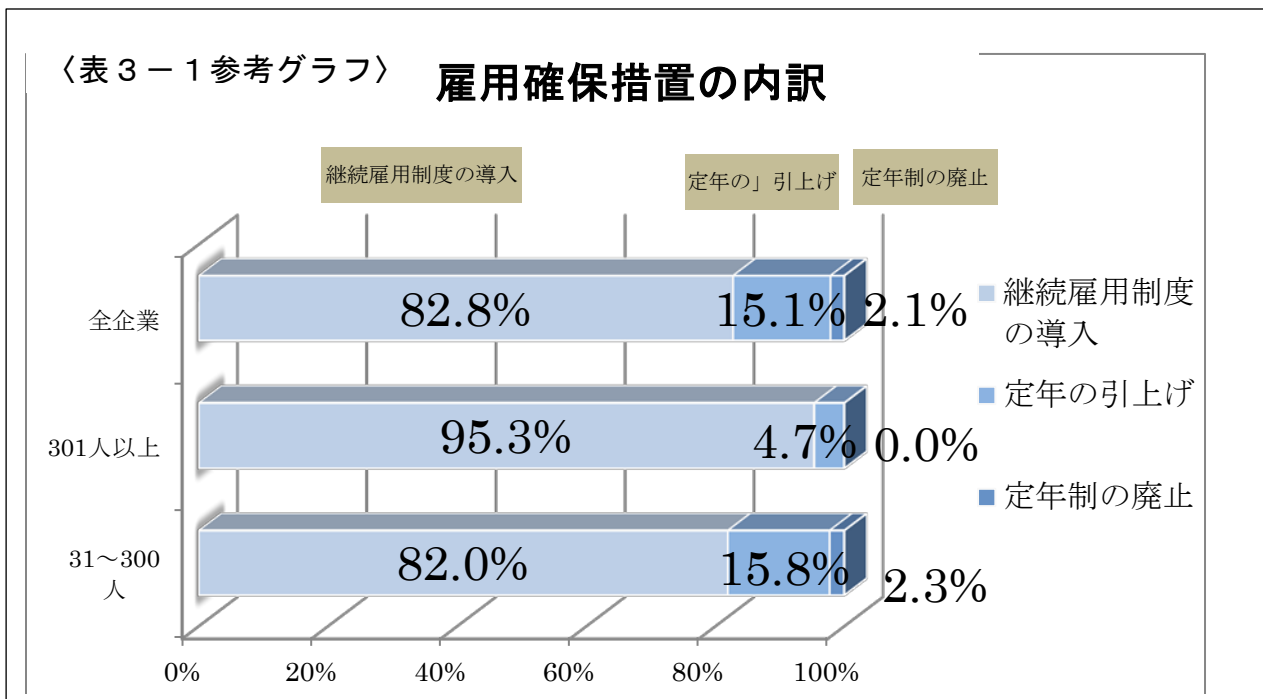
※ 平成 25 年 4 月に制度改正(継続雇用制度の対象者を限定できる仕組みの廃止)があったため、平成 24 年と 25 年の数値は単純比較できない。

(3) 雇用確保措置の内訳

雇用確保措置の実施済企業のうち、

- ① 「定年の廃止」により雇用確保措置を講じている企業は 2.1% (15 社) (増減なし)、
- ② 「定年の引上げ」により雇用確保措置を講じている企業は 15.1% (107 社) (同 0.4 ポイント減少)、

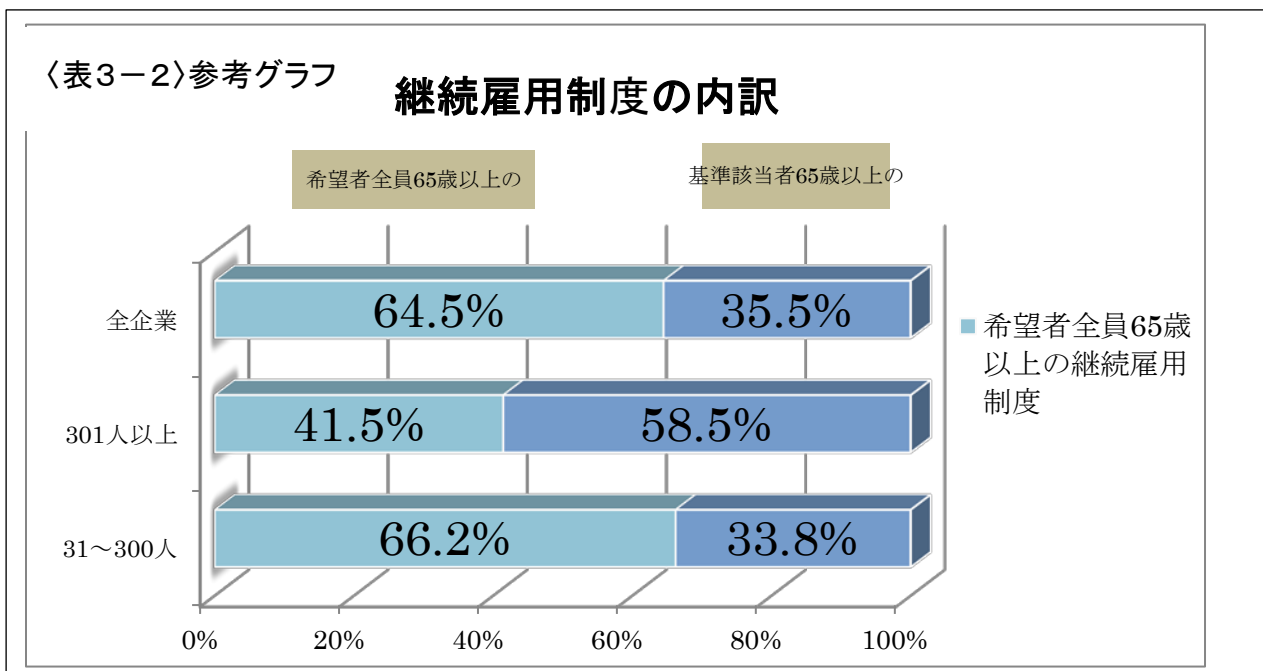
③「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業は 82.8% (586 社) (同 0.4 ポイント増加)
 となっており、定年制度 (①、②) により雇用確保措置を講じるよりも、継続雇用制度 (③) により雇用確保措置を講じる企業の比率が高い。(10 ページ表3-1)



(4) 継続雇用制度の内訳

「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業 (586 社) のうち、

- ① 希望者全員を対象とする 65 歳以上の継続雇用制度を導入している企業は 64.5% (378 社) (同 1.3%ポイント増加)
- ② 高年齢者雇用安定法一部改正法の経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準がある継続雇用制度を導入している企業 (経過措置適用企業) は 35.5% (208 社) (同 1.3 ポイント減少) となっている。(10 ページ表3-2)



(5) 継続雇用先の内訳

「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業(586社)の継続雇用先について、自社のみである企業は95.9%(562社)、自社以外の継続雇用先(親会社・子会社、関連会社等)のある企業は4.1%(24社)となっている。(11ページ表3-3)

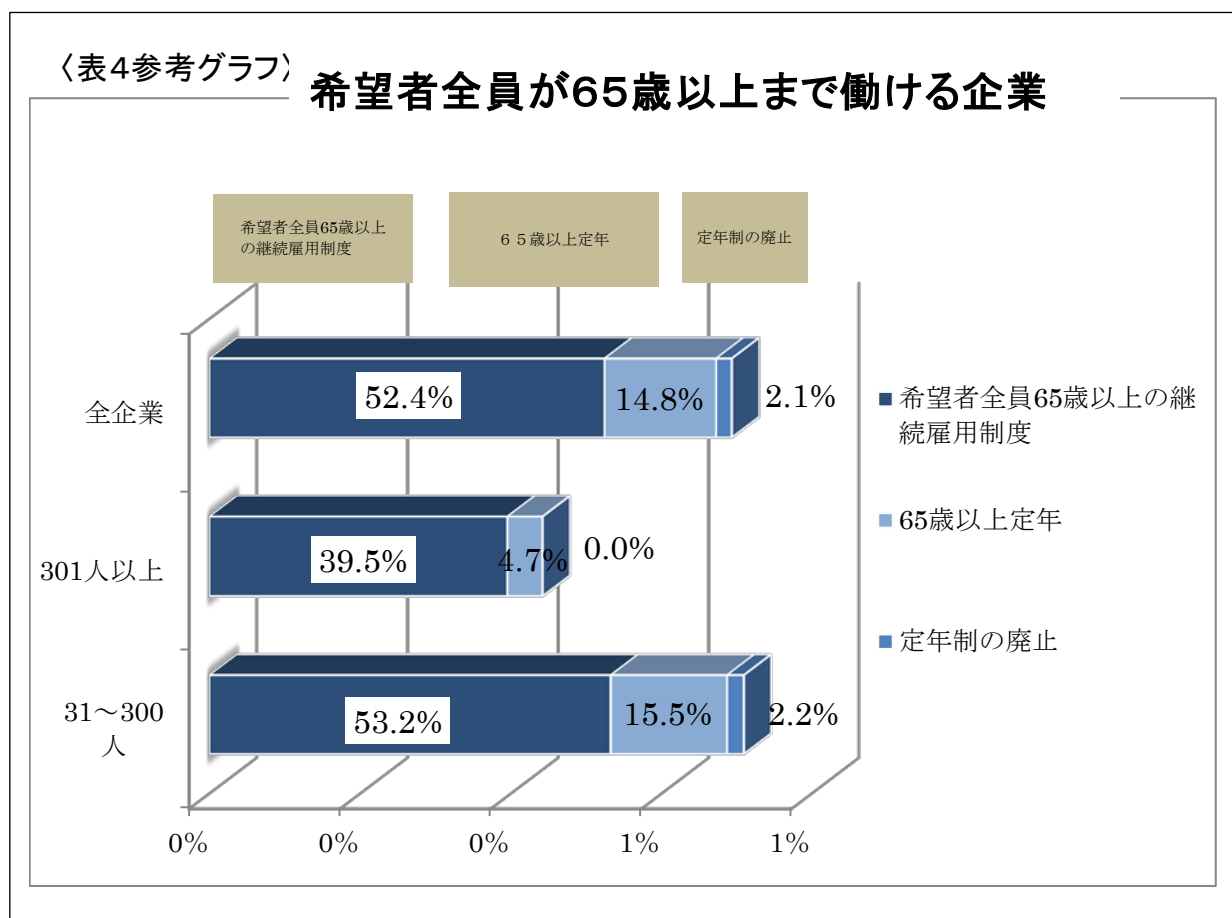
2 希望者全員が65歳以上まで働ける企業等について

(1) 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

希望者全員が65歳以上まで働ける企業は500社(対前年差9社増加)、報告した全ての企業に占める割合は69.3%(同0.8ポイント増加)となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では481社(同12社増加)、70.9%(同1.1ポイント増加)、
 - ② 大企業では19社(同3社減少)、44.2%(同4.7ポイント減少)、
- となっている。(12ページ表4)



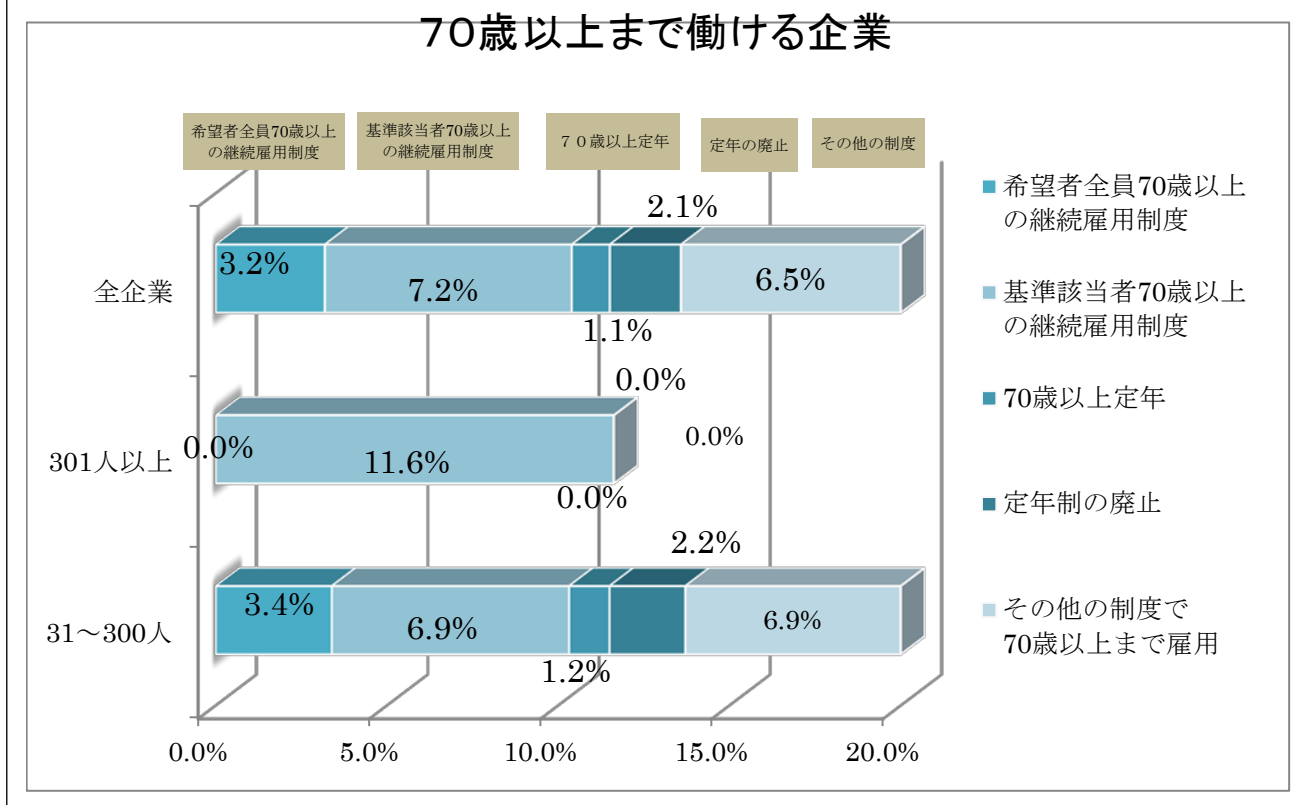
(2) 70歳以上まで働ける企業の状況

70歳以上まで働ける企業は、145社(同12社増加)、報告した全ての企業に占める割合は20.1%(同1.6ポイント増加)となっている。

企業規模別に見ると、

- ① 中小企業では140社(同12社増加)、20.6%(同1.6ポイント増加)、
 - ② 大企業では5社(増減なし)、11.6%(同0.5ポイント増加)、
- となっている。(12ページ表5)

〈表 4 参考グラフ〉

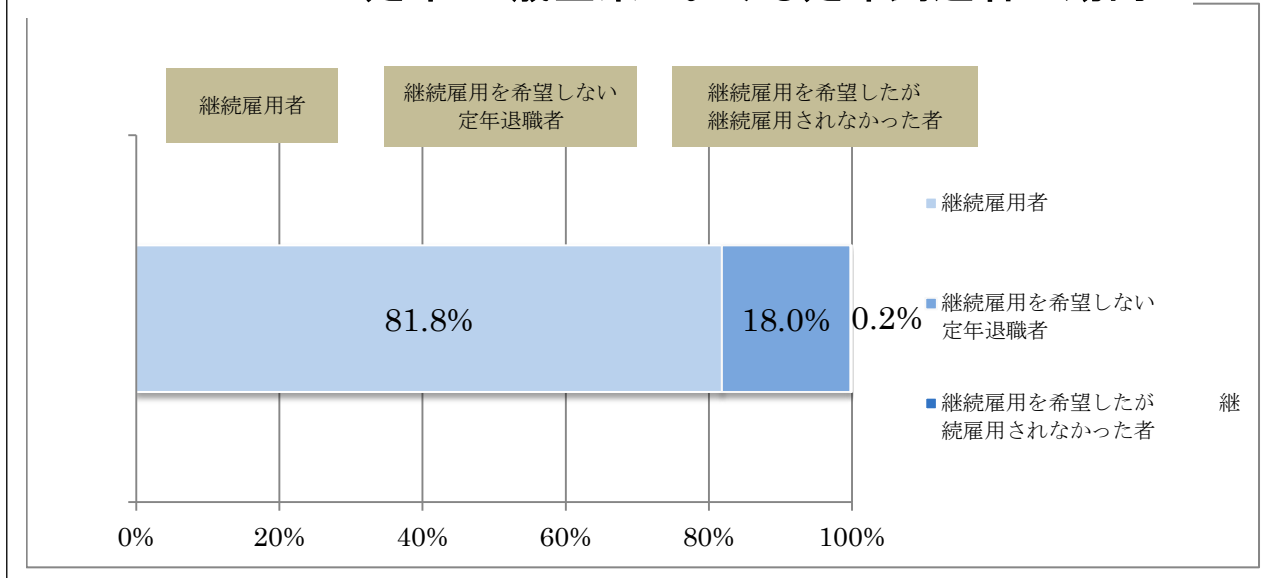


3 定年到達者等の動向について

(1) 定年到達者の動向

過去1年間(平成 26 年 6 月 1 日から平成 27 年 5 月 31 日)の 60 歳定年企業における定年到達者 1,145 人のうち、継続雇用された者は 937 人(81.3%) (うち子会社・関連会社等での継続雇用者は 17 人)、継続雇用を希望しない定年退職者は 206 人(18.0%)、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった者は 2 人(0.2%)となっている。(14 ページ表 7-1)

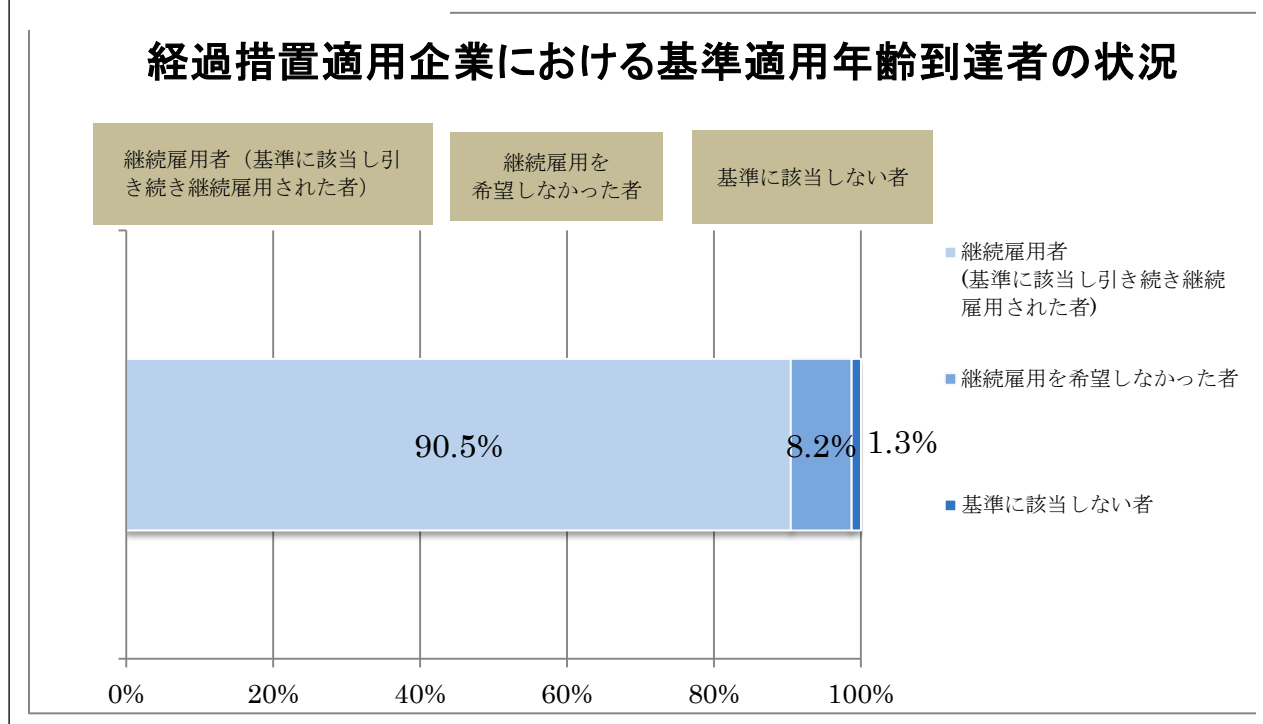
〈表 7 参考グラフ〉 定年60歳企業における定年到達者の動向



(2) 経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準の適用状況

平成 26 年 6 月 1 日から平成 27 年 5 月 31 日までの間に、経過措置に基づく対象者を限定する基準がある企業において、基準を適用できる年齢(61 歳)に到達した者 388 人のうち、基準に該当し引き続き継続雇用された者は 351 人(90.5%)、継続雇用の更新を希望しなかった者は 32 人(8.2%)、継続雇用を希望したが基準に該当せずに継続雇用が終了した者は 5 人(1.3%)となっている。(14 ページ表 7-2)

〈表 7-2 参考グラフ〉



4 高年齢労働者の状況

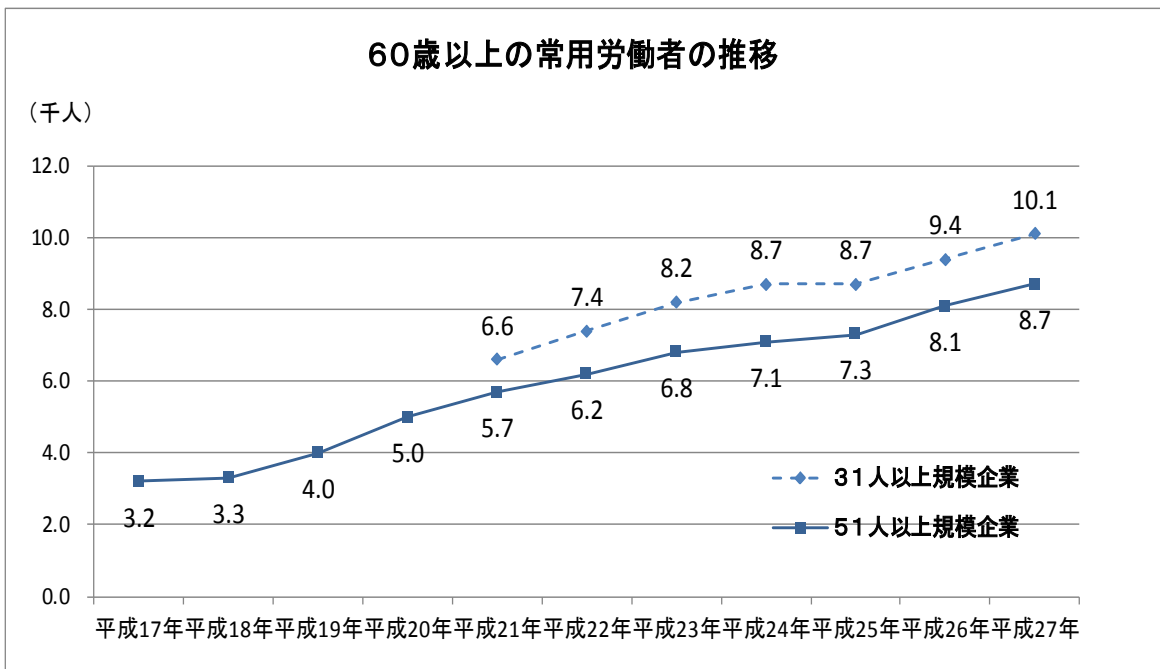
(1) 年齢階級別の常用労働者数について

31 人以上規模企業における常用労働者数 83,419 人のうち、60 歳以上の常用労働者数は 10,120 人で 12.1%を占めている。年齢階級別に見ると、60～64 歳が 6,731 人、65～69 歳が 2,670 人、70 歳以上が 719 人となっている。

(2) 雇用確保措置の義務化後の高年齢労働者の推移

51 人以上規模企業における 60 歳以上の常用労働者数は 8,716 人であり、雇用確保措置の義務化前(平成 17 年)と比較すると、5,530 人増加している。31 人以上規模企業における 60 歳以上の常用労働者数は 10,120 人であり、平成 21 年と比較すると、3,512 人増加している。(15 ページ表 8)

〈表 8 参考グラフ〉



5 今後の取組

(1) 雇用確保措置の定着に向けた取組

雇用確保措置が未実施である企業(31人以上規模企業)が13社あることから、労働局、ハローワークによる個別指導を強力に実施し、早期解消を図る。

(2) 生涯現役社会の実現に向けた取組

少子・高齢化の進行、将来の労働力人口の低下、団塊世代の65歳への到達等を踏まえ、年齢にかかわらず働ける社会の実現に向け、65歳までの雇用確保を基盤として「70歳まで働ける企業」の普及・啓発に取り組む。

表1 雇用確保措置の実施状況

(社、%)

	①実施済み		②未実施		合計(①+②)	
31～300人	665	(660)	13	(12)	678	(672)
	98.1%	(98.2%)	1.9%	(1.8%)	100.0%	(100.0%)
31～50人	233	(235)	8	(05)	241	(240)
	96.7%	(97.9%)	3.3%	(2.1%)	100.0%	(100.0%)
51～300人	432	(425)	5	(07)	437	(432)
	98.9%	(98.4%)	1.1%	(1.6%)	100.0%	(100.0%)
301人以上	43	(45)	0	(00)	43	(45)
	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	100.0%	(100.0%)
31人以上 総計	708	(705)	13	(12)	721	(717)
	98.2%	(98.3%)	1.8%	(1.7%)	100.0%	(100.0%)
51人以上 総計	475	(470)	5	(07)	480	(477)
	99.0%	(98.5%)	1.0%	(1.5%)	100.0%	(100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表2 規模別・産業別実施状況

(%)

規模別	①実施済企業割合		②未実施企業割合					
	31～50人	96.7%	(97.9%)	3.3%	(2.1%)			
51～100人	98.9%	(98.1%)	1.1%	(1.9%)				
101～300人	98.8%	(98.8%)	1.2%	(1.2%)				
301～500人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)				
501～1,000人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)				
1,001人以上	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)				
合計	98.2%	(0.0%)	1.8%	(0.0%)				
産業別	31人以上		51人以上		31人以上		51人以上	
	農、林、漁業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(30.0%)	0.0%
鉱業、採石業、砂利採取業	100.0%	-	-	-	-	-	-	-
建設業	97.7%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	2.3%	(10.3%)	0.0%	(11.8%)
製造業	97.7%	(98.3%)	98.2%	(99.1%)	2.3%	(8.5%)	1.8%	(6.4%)
電気・ガス・熱供給・水道業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(33.3%)	0.0%	(33.3%)
情報通信業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(10.0%)	0.0%	(11.1%)
運輸、郵便業	97.2%	(97.3%)	100.0%	(100.0%)	2.8%	(2.9%)	0.0%	(4.8%)
卸売業、小売業	98.5%	(97.8%)	100.0%	(97.8%)	1.5%	(7.5%)	0.0%	(8.8%)
金融業、保険業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	-	0.0%	-
不動産業、物品賃貸業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	-	0.0%	-
学術研究、専門・技術サービス業	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	-	0.0%	-
宿泊業、飲食サービス業	93.9%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	6.1%	(6.5%)	0.0%	-
生活関連サービス業、娯楽業	96.3%	(100.0%)	93.8%	(100.0%)	3.7%	(8.3%)	6.3%	(7.1%)
教育、学習支援業	95.8%	(95.0%)	92.9%	(92.9%)	4.2%	(15.0%)	7.1%	(13.3%)
医療、福祉	100.0%	(98.5%)	100.0%	(98.2%)	0.0%	(8.7%)	0.0%	(8.4%)
複合サービス事業	100.0%	(89.9%)	100.0%	(85.7%)	0.0%	-	0.0%	-
サービス業(他に分類されないもの)	98.1%	(98.1%)	97.2%	(100.0%)	1.9%	(16.0%)	2.8%	(12.5%)
その他	100.0%	(100.0%)	100.0%	(100.0%)	0.0%	-	0.0%	-
合計	98.2%	(98.3%)	99.0%	(98.5%)	1.8%	(8.8%)	1.0%	(8.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表3-1 雇用確保措置実施企業における措置内容の内訳

(社、%)

	①定年制の廃止	②定年の引上げ	③継続雇用制度の導入	合計(①+②+③)
31~300人	15 (15)	105 (107)	545 (538)	665 (660)
	2.3% (2.3%)	15.8% (16.2%)	82.0% (81.5%)	100.0% (100.0%)
31~50人	9 (11)	57 (57)	167 (167)	233 (235)
	3.9% (4.7%)	24.5% (24.3%)	71.7% (71.1%)	100.0% (100.0%)
51~300人	6 (04)	48 (50)	378 (371)	432 (425)
	1.4% (0.9%)	11.1% (11.8%)	87.5% (87.3%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	2 (02)	41 (43)	43 (45)
	0.0% (0.0%)	4.7% (4.4%)	95.3% (95.6%)	100.0% (100.0%)
31人以上総計	15 (15)	107 (109)	586 (581)	708 (705)
	2.1% (2.1%)	15.1% (15.5%)	82.8% (82.4%)	100.0% (100.0%)
51人以上総計	6 (04)	50 (52)	419 (414)	475 (470)
	1.3% (0.9%)	10.5% (11.1%)	88.2% (88.1%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「合計」は表1の「①実施済み」に対応している。

「②定年の引上げ」は65歳以上の定年の定めを設けている企業、「③継続雇用制度の導入」は定年年齢は65歳未満だが継続雇用制度の年齢を65歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

表3-2 継続雇用制度の内訳

(社、%)

	①希望者全員65歳以上の継続雇用制度	②基準該当者65歳以上の継続雇用制度(経過措置適用企業)	合計(①+②)
31~300人	361 (347)	184 (191)	545 (538)
	66.2% (64.5%)	33.8% (35.5%)	100.0% (100.0%)
31~50人	131 (127)	36 (40)	167 (167)
	78.4% (76.0%)	21.6% (24.0%)	100.0% (100.0%)
51~300人	230 (220)	148 (151)	378 (371)
	60.8% (59.3%)	39.2% (40.7%)	100.0% (100.0%)
301人以上	17 (20)	24 (23)	41 (43)
	41.5% (46.5%)	58.5% (53.5%)	100.0% (100.0%)
31人以上総計	378 (367)	208 (214)	586 (581)
	64.5% (63.2%)	35.5% (36.8%)	100.0% (100.0%)
51人以上総計	247 (240)	172 (174)	419 (414)
	58.9% (58.0%)	41.1% (42.0%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

※「合計」は表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表3-3 継続雇用先の内訳

(社、%)

	自社以外の継続雇用先がある企業								合計 (①~⑦)
	① 自社のみ	② 自社、親会 社・子会社	③ 自社、関連 会社等	④ 自社、親会 社・子会社、 関連会社等	⑤ 親会社・子 会社	⑥ 親会社・子 会社、関連 会社等	⑦ 関連会社等	小計 (②~⑦)	
31~300人	524 (524)	12 (11)	4 (01)	4 (01)	1 (01)	0 (0)	0 (00)	21 (14)	545 (538)
	96.1% (97.4%)	2.2% (2.0%)	0.7% (0.2%)	0.7% (0.2%)	0.2% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	3.9% (2.6%)	100.0% (100.0%)
31~50人	163 (164)	2 (03)	1 (00)	1 (00)	0 (00)	0 (0)	0 (00)	4 (03)	167 (167)
	97.6% (98.2%)	1.2% (1.8%)	0.6% (0.0%)	0.6% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	2.4% (1.8%)	100.0% (100.0%)
51~300人	361 (360)	10 (08)	3 (01)	3 (01)	1 (01)	0 (0)	0 (00)	17 (11)	378 (371)
	95.5% (97.0%)	2.6% (2.2%)	0.8% (0.3%)	0.8% (0.3%)	0.3% (0.3%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	4.5% (3.0%)	100.0% (100.0%)
301人以上	38 (43)	1 (00)	1 (00)	1 (00)	0 (00)	0 (0)	0 (00)	3 (00)	41 (43)
	92.7% (100.0%)	2.4% (0.0%)	2.4% (0.0%)	2.4% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	7.3% (0.0%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	562 (567)	13 (11)	5 (01)	5 (01)	1 (01)	0 (00)	0 (00)	24 (14)	586 (581)
	95.9% (97.6%)	2.2% (1.9%)	0.9% (0.2%)	0.9% (0.2%)	0.2% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	4.1% (2.4%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	399 (403)	11 (08)	4 (01)	4 (01)	1 (01)	0 (0)	0 (00)	20 (11)	419 (414)
	95.2% (97.3%)	2.6% (1.9%)	1.0% (0.2%)	1.0% (0.2%)	0.2% (0.2%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	4.8% (2.7%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

※「合計」は表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表4 希望者全員が65歳以上まで働ける企業の状況

(社、%)

				合計 (①+②+③)	報告した全ての企業
	① 定年制の廃止	② 65歳以上定年	③ 希望者全員65歳以上の 継続雇用制度		
31～300人	15 (15)	105 (107)	361 (347)	481 (469)	678 (672)
	2.2% (2.2%)	15.5% (15.9%)	53.2% (51.6%)	70.9% (69.8%)	100.0% (100.0%)
31～50人	9 (11)	57 (57)	131 (127)	197 (195)	241 (240)
	3.7% (4.6%)	23.7% (23.8%)	54.4% (52.9%)	81.7% (81.3%)	100.0% (100.0%)
51～300人	6 (04)	48 (50)	230 (220)	284 (274)	437 (432)
	1.4% (0.9%)	11.0% (11.6%)	52.6% (50.9%)	65.0% (63.4%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	2 (02)	17 (20)	19 (22)	43 (45)
	0.0% (0.0%)	4.7% (4.4%)	39.5% (44.4%)	44.2% (48.9%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	15 (15)	107 (109)	378 (367)	500 (491)	721 (717)
	2.1% (2.1%)	14.8% (15.2%)	52.4% (51.2%)	69.3% (68.5%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	6 (04)	50 (52)	247 (240)	303 (296)	480 (477)
	1.3% (0.8%)	10.4% (10.9%)	51.5% (50.3%)	63.1% (62.1%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「希望者全員が65歳以上まで働ける企業」は「定年制の廃止」、「65歳以上定年」及び「希望者全員65歳以上の継続雇用制度」の合計である。

「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

表5 70歳以上まで働ける企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	② 70歳以上定年	③70歳以上までの継続雇用制度		④ その他の制度で70歳以上まで雇用	合計 (①+②+③+④)	報告した全ての企業
			希望者全員70歳以上	基準該当者70歳以上			
31～300人	15 (15)	8 (09)	23 (18)	47 (40)	47 (46)	140 (128)	678 (672)
	2.2% (2.2%)	1.2% (1.3%)	3.4% (2.7%)	6.9% (6.0%)	6.9% (6.8%)	20.6% (19.0%)	100.0% (100.0%)
31～50人	9 (11)	5 (06)	9 (08)	18 (14)	12 (12)	53 (51)	241 (240)
	3.7% (4.6%)	2.1% (2.5%)	3.7% (3.3%)	7.5% (5.8%)	5.0% (5.0%)	22.0% (21.3%)	100.0% (100.0%)
51～300人	6 (04)	3 (03)	14 (10)	29 (26)	35 (34)	87 (77)	437 (432)
	1.4% (0.9%)	0.7% (0.7%)	3.2% (2.3%)	6.6% (6.0%)	8.0% (7.9%)	19.9% (17.8%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (00)	0 (0)	0 (00)	5 (04)	0 (01)	5 (05)	43 (45)
	0.0% (1.0%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	11.6% (8.9%)	0.0% (2.2%)	11.6% (11.1%)	100.0% (100.0%)
31人以上 総計	15 (15)	8 (09)	23 (18)	52 (44)	47 (47)	145 (133)	721 (717)
	2.1% (2.1%)	1.1% (1.3%)	3.2% (2.5%)	7.2% (6.1%)	6.5% (6.6%)	20.1% (18.5%)	100.0% (100.0%)
51人以上 総計	6 (04)	3 (03)	14 (10)	34 (30)	35 (35)	92 (82)	480 (477)
	1.3% (0.8%)	0.6% (0.6%)	2.9% (2.1%)	7.1% (6.3%)	7.3% (7.3%)	19.2% (17.2%)	100.0% (100.0%)

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「70歳以上まで働ける企業」は「定年制の廃止」、「70歳以上定年」、「70歳以上までの継続雇用制度」及び「その他の制度で70歳以上まで雇用」の合計である。

「その他の制度で70歳以上まで雇用」とは、希望者全員や基準該当者を70歳以上まで継続雇用する制度は導入していないが、企業の実情に応じて何らかの仕組みで70歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

「報告した全ての企業」は表1の「合計」に対応している。

表6 都道府県別の状況

(%)

	雇用確保措置導入企業割合		希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合		70歳以上まで働ける企業割合	
北海道	99.2%	(98.9%)	74.2%	(72.9%)	19.1%	(17.6%)
青森	99.2%	(98.0%)	78.4%	(76.4%)	22.2%	(21.0%)
岩手	98.9%	(96.8%)	84.4%	(82.7%)	22.8%	(21.3%)
宮城	98.7%	(98.7%)	74.7%	(73.5%)	21.1%	(18.7%)
秋田	99.5%	(99.4%)	80.5%	(79.9%)	30.9%	(27.5%)
山形	99.2%	(97.3%)	71.8%	(69.2%)	16.7%	(15.5%)
福島	98.8%	(97.8%)	76.1%	(73.4%)	18.8%	(16.9%)
茨城	99.6%	(98.5%)	78.5%	(77.5%)	19.3%	(19.0%)
栃木	99.8%	(99.7%)	75.5%	(74.5%)	17.3%	(16.0%)
群馬	98.3%	(97.2%)	77.6%	(75.1%)	18.5%	(17.3%)
埼玉	99.3%	(98.4%)	79.2%	(78.1%)	21.7%	(19.8%)
千葉	98.8%	(96.1%)	74.1%	(71.8%)	25.8%	(24.0%)
東京	99.4%	(98.9%)	66.9%	(65.2%)	15.2%	(15.0%)
神奈川	99.3%	(97.5%)	72.7%	(70.7%)	19.0%	(18.0%)
新潟	99.2%	(98.5%)	75.3%	(74.2%)	22.6%	(18.6%)
富山	99.8%	(98.6%)	69.8%	(67.5%)	28.9%	(26.9%)
石川	98.3%	(96.8%)	75.0%	(73.0%)	18.1%	(17.0%)
福井	99.9%	(99.5%)	73.3%	(71.1%)	16.9%	(16.9%)
山梨	99.2%	(98.2%)	72.0%	(70.6%)	17.6%	(16.7%)
長野	99.4%	(98.9%)	76.9%	(75.9%)	24.0%	(22.4%)
岐阜	99.9%	(99.1%)	80.3%	(79.3%)	24.2%	(23.2%)
静岡	99.5%	(99.2%)	77.1%	(76.4%)	23.4%	(21.6%)
愛知	99.5%	(99.0%)	71.9%	(69.6%)	23.7%	(22.6%)
三重	99.9%	(99.8%)	78.1%	(78.0%)	23.2%	(23.1%)
滋賀	98.4%	(96.9%)	71.6%	(70.3%)	19.2%	(17.3%)
京都	99.2%	(97.1%)	76.1%	(73.8%)	18.6%	(16.9%)
大阪	99.3%	(98.2%)	67.7%	(66.3%)	19.1%	(18.5%)
兵庫	99.0%	(97.8%)	70.9%	(69.5%)	19.3%	(18.3%)
奈良	97.6%	(95.2%)	77.2%	(76.3%)	24.2%	(21.1%)
和歌山	99.0%	(98.2%)	76.2%	(75.5%)	21.0%	(20.1%)
鳥取	98.2%	(98.3%)	69.3%	(68.5%)	20.1%	(18.5%)
島根	99.8%	(99.7%)	78.5%	(77.6%)	28.8%	(25.5%)
岡山	98.8%	(97.3%)	73.6%	(71.2%)	23.3%	(22.4%)
広島	99.5%	(99.3%)	74.1%	(73.6%)	20.3%	(20.2%)
山口	99.6%	(98.8%)	73.6%	(73.1%)	24.9%	(24.3%)
徳島	100.0%	(96.7%)	74.2%	(71.7%)	23.5%	(23.1%)
香川	99.7%	(97.6%)	75.2%	(72.8%)	23.0%	(21.7%)
愛媛	99.6%	(99.2%)	67.3%	(65.2%)	24.2%	(23.0%)
高知	99.9%	(97.9%)	68.2%	(67.0%)	18.1%	(16.8%)
福岡	97.3%	(95.1%)	68.6%	(66.8%)	19.5%	(17.9%)
佐賀	98.6%	(97.9%)	65.9%	(64.4%)	21.4%	(18.4%)
長崎	97.8%	(96.4%)	69.3%	(70.2%)	21.9%	(20.8%)
熊本	98.2%	(96.4%)	72.5%	(71.6%)	16.7%	(16.4%)
大分	99.7%	(99.1%)	83.5%	(81.8%)	21.5%	(20.6%)
宮崎	99.8%	(96.1%)	79.0%	(75.7%)	24.5%	(22.9%)
鹿児島	98.6%	(97.7%)	76.5%	(76.5%)	20.3%	(19.1%)
沖縄	98.7%	(94.8%)	68.9%	(66.5%)	16.3%	(17.2%)
全国計	99.2%	(98.1%)	72.5%	(71.0%)	20.1%	(19.0%)

※31人以上規模企業の状況

※()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表7-1 60歳定年企業における定年到達者等の状況

	企業数 (社)	定年到達者総数 (人)	継続雇用者数		うち子会社等・関連会社等 の継続雇用者数		定年退職者数 (継続雇用を希望しない者)		定年退職者数 (継続雇用を希望したが継続 雇用されなかった者)		継続雇用の 終了による 離職者数 (人)
60歳定年企業で 定年到達者がいる企業等	390	1,145	937	81.8% (79.5%)	17	1.5% (1.2%)	206	18.0% (20.2%)	2	0.2% (0.3%)	156
うち女性	205	535	435	81.3% (81.8%)	9	1.7% (0.0%)	100	18.7% (18.2%)	0	0.0% (0.0%)	74

※過去1年間(平成26年6月1日から平成27年5月31日)に60歳定年企業において定年年齢に到達した者について集計している。

()内は、平成26年6月1日現在の数値。

「継続雇用の終了による離職者数」は継続雇用制度における上限年齢に到達したことによる離職者の数。

表7-2 経過措置企業における基準適用年齢到達者の状況

	企業数 (社)	基準を適用でき る年齢に到達し た者の総数 (人)	継続雇用者数 (基準に該当し引き続き継続 雇用された者)		継続雇用終了者数 (継続雇用の更新を希望しな い者)		継続雇用終了者数 (基準に該当しない者)	
経過措置適用企業で基準適用 年齢到達者(61歳)がいる企業	100	388	351	90.5% (89.0%)	32	8.2% (10.6%)	5	1.3% (0.5%)
うち女性	48	178	158	88.8% (89.1%)	19	10.7% (10.9%)	1	0.6% (0.0%)

※平成26年6月1日から平成27年5月31日に経過措置適用企業(60歳、61歳定年企業)において基準適用年齢に到達した者について集計している。

()内は、平成26年6月1日現在の数値。

表8 年齢別常用労働者数

(人)

		年齢計		60歳以上合計		60～64歳		65歳以上 (平成25年以降はうち70歳以上)	
51人以上 規模企業	平成17年	65,543人	(100.0)	3,186人	(100.0)	2,370人	(100.0)	816人	(100.0)
	平成18年	65,638人	(100.1)	3,261人	(102.4)	2,310人	(97.5)	951人	(116.5)
	平成19年	67,105人	(102.4)	4,043人	(126.9)	2,930人	(123.6)	1,113人	(136.4)
	平成20年	70,645人	(107.8)	5,020人	(157.6)	3,769人	(159.0)	1,251人	(153.3)
	平成21年	69,524人	(106.1)	5,681人	(178.3)	4,225人	(178.3)	1,456人	(178.4)
	平成22年	70,080人	(106.9)	6,206人	(194.8)	4,720人	(199.2)	1,486人	(182.1)
	平成23年	70,593人	(107.7)	6,830人	(214.4)	5,337人	(225.2)	1,493人	(183.0)
	平成24年	69,892人	(106.6)	7,112人	(223.2)	5,456人	(230.2)	1,656人	(202.9)
	平成25年	70,128人	(107.0)	7,278人	(228.4)	5,340人	(225.3)	1,531人 (407人)	(187.6)
	平成26年	73,230人	(111.7)	8,131人	(255.2)	5,677人	(239.5)	2,454人 (514人)	(300.7)
平成27年	73,798人	(112.6)	8,716人	(273.6)	5,833人	(246.1)	2,883人 (598人)	(347.2)	
31人以上 規模企業	平成21年	78,333人	(100.0)	6,608人	(100.0)	4,914人	(100.0)	1,694人	(100.0)
	平成22年	79,931人	(102.0)	7,399人	(112.0)	5,610人	(114.2)	1,789人	(105.6)
	平成23年	80,730人	(103.1)	8,164人	(123.5)	6,363人	(129.5)	1,801人	(106.3)
	平成24年	81,123人	(103.6)	8,680人	(131.4)	6,620人	(134.7)	2,060人	(121.6)
	平成25年	80,437人	(102.7)	8,703人	(131.7)	6,339人	(129.0)	2,364人 (503人)	(139.6)
	平成26年	82,798人	(105.7)	9,436人	(142.8)	6,533人	(132.9)	2,903人 (628人)	(171.4)
	平成27年	83,419人	(106.5)	10,120人	(153.1)	6,731人	(137.0)	3,389人 (719人)	(200.1)

※()は平成17年を100とした場合の比率(31人以上は平成21年を100とした場合の比率)